

3月の言葉

「花」といえば

古来より日本では、花といえば「桜」のこと。

もうすぐ、桜の開花が南から順に発表される季節。なにやら心がわくわくしますね。

ただ、桜は花の時期が短く、しかも往々にして、咲いてすぐ花散らしの雨に見舞われますよね。それ故に、そのはかなさを、日本の武士道精神の象徴として尊んできました。

しかし、本当に「桜」は花だけが尊い存在なのでしょうか。確かに、春には満開の花が目を奪いますが、夏になれば青葉が茂り、その木の下に涼しい憩いの場をもたらしてくれ、秋には、見事な紅葉に染まり、心を和ませてくれる。冬には、惜しげもなく葉を地上に落とし、地面に暖かな日の光を取り込み、落ち葉の絨毯で虫たちの冬眠を助ける。そう、「桜」は一年を通じてその存在意義を持っているのです。

我々は、「花」のように、華やかな活躍をしている人に目がいきがちですが、「葉」のように、目立たなくても大切な役割を果たしてくれている人がいるのです。縁の下で一所懸命に支えてくれている仲間の存在に気づく感性を養い、感謝する気持ちを持ちたいものです。また皆さんにも、そんな存在になる志のあらんことを願っています。

因みに、奈良県の今年の開花予想は、今月三十一日だそうです。

弥生朔日。巣立ちゆく皆さんに、たくさんの花が咲きますように……。

戊戌（つちのえいぬ）年弥生吉日